

2013年度の FFRDC による支出、40機関中24機関において前年度比で減少（4月16日）

米国科学財団（National Science Foundation : NSF）傘下の米国科学工学統計センター（National Center for Science and Engineering Statistics : NCSES）は4月16日、連邦資金を受給する研究開発センター（Federally Funded Research and Development Center : FFRDC）における2013年度の研究開発（R&D）支出に関する報告書「FFRDCの大半において、2013年度のR&D支出額が減少（Majority of Federally Funded R&D Centers Report Declines in R&D Spending in FY 2013）」を発表した。これによると、FFRDC40機関のうち、24機関はR&D支出が前年度から減少し、そのうち17機関は、2年連続で支出額が減少したことが明らかにされた。この他の主要な調査結果は以下の通り。

• FFRDCにおけるR&D支出の96%以上は連邦資金で、2010年度以降の連邦資金支出額の減少に呼応してR&D支出総額が減少。

• FFRDC40機関のうち、米航空宇宙局（National Aeronautics and Space Administration : NASA）のジェット推進研究所（Jet Propulsion Laboratory）と、エネルギー省（Department of Energy）傘下のサンディア（Sandia）、オークリッジ（Oak Ridge）、ロスアラモス（Los Alamos）、及びローレンス・リバモア（Lawrence Livermore）の4つの国立研究所を合わせた5機関によるR&D支出額が、FFRDC R&D総支出額の24.8%。但し、2012年度の35.2%からは大幅に減少。

• 基礎研究支出の41.0%は、大学が運営するFFRDCによる支出。また、開発支出の43.2%は、非営利団体が運営するFFRDCによる支出。そして、応用研究支出の60.9%は、企業が運営するFFRDCによる支出。

National Science Foundation, Majority of Federally Funded R&D Centers Report Declines in R&D Spending in FY 2013

<http://www.nsf.gov/statistics/2015/nsf15319/>